

一筆啓上

作左通信



第二三〇号 令和七年五月十五日 発行

令和六年度総会開催される

「一筆啓上・作左の会」総会が、去る四月十三日(日)六ツ美西部学区こどもの家で開催されました。当日はあいにくの雨模様でしたが、総勢九五名の参加があり、盛大に実施されました。

総会では市川真人会長の挨拶に続き、令和六年度の事業報告及び決算報告がなされ、満場一致で承認されました。

役員の改選では、会長として三年間ご尽力いただいた市川真人氏が山田靖氏の後を受けて相談役となられ、野田光宏氏が会長に就任しました。副会長には

赤渋四区の犬塚哲也氏が就任、

もう一人の副会長に赤渋五区総代の渡邊政彦氏が留任しました。会計は宮地西総代の熊代秀人氏のご退任に伴い、宮地中総代の鈴木晃氏が就任し、新体制として承認されました。

新会長は挨拶で、作左の思いやりの心を大切にし、六ツ美西部に住んでよかったと実感できるように、本会の充実・発展に努めたいと抱負を語っていました。

続いて令和七年度の事業計画として、①作左通信の年六回発行②ふるさと賞の募集、表彰式、

作品展の実施 ③ふれあいウオーク祭りの協賛 ④地域の歴史を探る会 ⑤さくさく旬会 ⑥組織の充実と取り組み ⑦作左の知名度拡大 ⑧作左の会ホームページの運用等が承認されました。

また、来賓として初めて岡崎市市長 内田康宏様のご臨席を賜り、本会が学区民の求心力の一助となっている様子を見ていただきました。さらに愛知県議会議員 新海正春様、六ツ美西部小学校長 浅野博志様からご祝辞を賜るなど、多くの方々に総会の開催を祝っていただきました。

総会後の講演会では、郷土史研究家の市橋章男氏を講師としてお招きし、「ドキュメント、桶狭間の合戦」く史料から見る信長の決断、家康公の決断とは〜についてご講演をいただきました。

令和7年度もホームページの充実、メディアの活用、各イベント等を通して会員及び地域との繋がりを深め、「一筆啓上・作左の会」が継続的に発展していただけるよう務めてまいります。



<総会会場風景>

*講演会の詳細は、「作左の会」ホームページに掲載してあります。ぜひご覧ください。



作左の会 検索

ドキュメント、桶狭間の合戦

～史料から見る 信長・家康公の決断とは～



講師 市橋 章男 氏

◆講師プロフィール〔略歴〕

1954年岡崎市生まれ。國學院大學で史学を専攻。教職員退職後、ふるさと岡崎にかかわる歴史・人物の著作活動を始める。2005年、岡崎長誉館で「おかざき塾歴史教室」を主宰開講。2019年、全国歴史研究会特別功労賞受賞。新編岡崎市史調査員、前二松学舎大学大学院研究員。全国歴史研究会特別会員、ケーブルテレビミクス放送審議委員長、現在は「岡崎ふるさと歴史教室」主催。NHK文化センター講師。

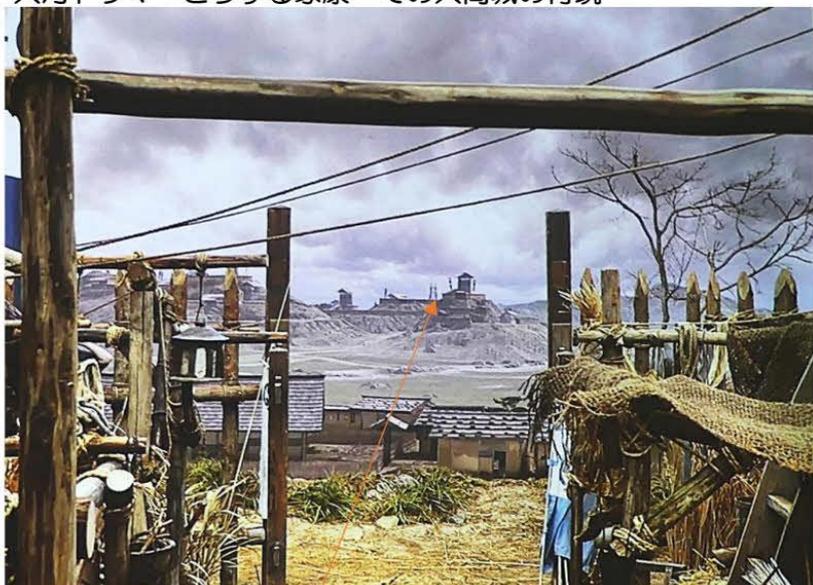


○左は、清洲城にある織田信長の像です。清洲城があったのはもう少し西で、今は清洲公園になっています。本当の本丸のあったところから新幹線のガードをくぐって行くと信長の像があります。

○右は、今川義元の像です。思っているイメージ、太って弱々しいのと違います。義元は公家もどきと言われおり、ドラマでもそういうキャラで扱われてますが、そうではなく公家なみの格式だったんです。だから“輿”に乗っていた（乗ることができた）んです。弱いから輿に乗っていたわけではなく立派な武将でした。

●文字があるからいろいろな記録が史料として残っています。この残された史料を探っていくことで、歴史の中の出来事が本当はどうだったのかを、私たちはうかがい知ることができます。今回は史料として信頼性の高い『信長公記』と『東照宮御実記』（徳川実記）を中心に分析して、桶狭間の合戦とは本当はどうだったのか私の考えをお話ししていきたいと思ひます。

大河ドラマ“どうする家康”での大高城の再現



遠くに見えるのは「丸根砦」、近くは城下の民家。手前はセットで背景はCG画像。
市橋講師撮影

桶狭間の合戦 その要諦こそ大高城

- ◆大高城は以前は織田方の城でしたが、この時、今川方に奪われていました。（鳴海城は織田家臣の城主が城ごと今川方に寝返った）
- ◆信長は、大高城を丸根砦・鷲津砦などで囲んでじわじわと兵糧攻めを行いました。兵糧が入ってこなくなって、助けを求められた今川義元は、家康（元康）に兵糧を届けるよう命じたのです。これが、「大高城兵糧入れ」です。

信長は、鳴海城のまわりのも、丹下砦・善照寺砦・中嶋砦を築いて囲んでいた。



作左の会

検索

← 続き(本文)はホームページをご覧ください。